

家庭科部会 「試案の理解を一層深めるための資料」

令和2年度 家庭科部会研究計画作成試案

**<主題>**  
 「協働的」→「対話的」  
 友達と考えを共有したり一緒に活動に取り組んだりすることはもちろん、友達や家族、身近な人々との会話をし、考えを深めるなど、より広い意味で捉えるため、「対話的に学び」とした。

**<昨年度の課題>**  
 家庭環境が異なるため、学校での共通体験を入れ、どの子ども自分の課題をもってできるようにするなど、場を保障する。

・グループ学習の目的や、取り入れ方（生活班か目的別か等）を吟味する必要がある。  
 ・身に付けた知識及び技能を生活に生かす場を学習過程に位置付け、自分の成長や実践する喜びを実感できるようにする。

変更点はないが、  
 ・自己の成長を自覚できる評価カード  
 ・課題解決への意欲を継続させる評価の仕方に加えて、新学習指導要領では、整理された3観点での評価を行うことから、併せて考えていく必要がある。

→今年度も重点を継続

1 研究主題  
 家族の一員として、主体的・対話的に学び、生活をよりよくしようとする子供の育成

2 研究主題設定の趣旨  
 (1) 研究主題について  
 家庭科では、生涯にわたって家庭生活を豊かに築いていく基盤となるよう、家族の一員としての自覚をもって家庭生活をよりよくしようと工夫する意欲・能力を育てることをわらわらしている。そこで、実生活と関連を困った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、身近な生活の中から課題を設定し解決していく授業を展開する。  
 家庭科の学習過程のイメージを「①生活の課題発見 ②解決方法の検討と計画 ③課題解決に向けた実践活動 ④実践活動の評価・改善」とし、次のような主体的に学ぶ姿を期待する。

①生活の課題発見……自分の生活から問題を見だし、解決すべき課題を設定する姿  
 ②解決方法の検討と計画……生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を考え、解決の見通しをもって計画を立てる姿  
 ③課題解決に向けた実践活動……生活に関わる知識及び技能を活用して、課題を解決する姿  
 ④実践活動の評価・改善……実践した結果を評価・改善し、家庭や地域での実践につなげる姿

また、自分の考えを広げ深めるために、どの学習場面においても次のような対話的に学ぶ姿を期待する。

・自分の考えを友達に伝えたり、家族や身近な人々と会話をしたりして、自分の考えを明確にする姿  
 ・友達の考え方や取組に触れることで、気付きを広げたり意欲を高めた姿  
 ・友達と目的をもって活動したり話し合ったりすることで、深く考え、より確かに理解する姿

以上のことから、上記の研究主題を設定し、家庭科での学びの質を高めていくことを目指す。

2 研究の歩み  
 昨年度は、研究主題「家族の一員として、主体的・協働的に学び、生活をよりよくしようとする子供の育成」を掲げ、「指導の効果を高める題材構成」「学びを深める手立て」「主体的な学習を支える評価」を意識して、主題を掘り込んだ。研究に取り進んだ結果、次のようなことが明らかになった。

<指導の効果を高める題材構成>  
 小中の系統性を確かめた上で題材のゴールを明確に示し、学校全体の取組や他教科と家庭科を関連させた題材を構成することにより、学びの連続性がある生活の課題解決につながる学習となった。また、子供たちの実態を捉え、問題解決的な学習を段階的に取り入れながら繰り返し学習する指導計画を立てることで、習得した基礎的・基本的な知識及び技能を活用して次の活動に取り組むことができた。今後は、子供たちの家庭生活の状況が異なることに配慮し、学校での共通体験の場を工夫することで子供たちが思いをもち、自ら解決すべき課題を設定し、適切な題材構成の工夫も考える。

<学びを深める手立て>  
 食生活など生活の中での様々な言葉について実感を伴って理解する活動、違いを比較する実践や考えを検証する実践、考えや結果を友達と共有する言語活動の充実を図った。話し合いの際には、目的や観点を明確に示し、視覚的な資料を用いて実践や考えの整理を促した。このように、友達の考えや事象と関わり合うことが対話的な学びにつながった。また、授業教諭や地域の方の連携、家庭生活を学ぶワークシート、ICTを活用した提示等の工夫によって、子供たちの課題解決を支えることができた。今後、子供たちが自らの考えを広げ深めるために、グループ学習の効果的な取り入れ方を吟味する必要がある。さらに、身に付けた知識及び技能を生きて生かす場面を設定し、自分の成長を実感する喜びを実感できるよう、学習過程に位置付けることが大切である。

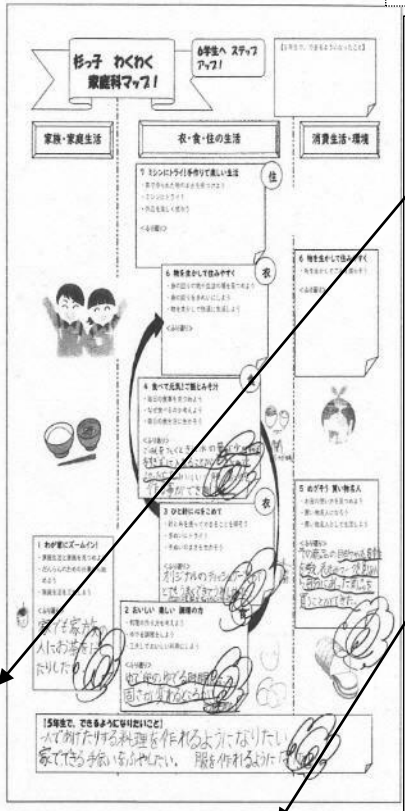
<主体的な学習を支える評価>  
 観点を明らかにして自己評価し、課題への振り返りを確かなことで、以前の自分と比べながら学習に取り組む、次第につなげることができた。また、相互評価を取り入れたことが、アドバイスしながら協働的に学ぶ姿につながった。さらに、家庭と連携し、家庭での取組やインタビューを行ったり、家族から評価されたりすることによって、子供たちは家族の思いに気付き、家庭実践への意欲を高めたことができた。自己の成長を自覚できる評価カードの活用や、次の課題解決への意欲を継続させる評価の仕方の工夫を今後も検討していく必要がある。

そこで、今年度も引き続き、「指導の効果を高める題材構成」「学びを深める手立て」「主体的な学習を支える評価」に留意し、昨年度までの研究を踏まえて主題を掘り込んだことにする。

新学習指導要領の趣旨を踏まえて変更

.....前年度からの変更箇所

3 研究内容  
 (1) 指導計画の工夫  
 ① 「自分の成長」を2学年間の学習全体を貫く視点とした指導計画  
 指導計画を立てるにあたって、まず、2学年間の家庭科の学習で目指す子供の姿や指導の道筋を明らかにする。学習指導要領「A家族・家庭生活」の1)A「自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ、家族との協力」については、2学年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスとして5学年の最初に扱う。また、「自分の成長」を2学年間の学習全体を貫く視点とし、成長マップ等を活用して自分の成長を確認しながら学習を積み重ねていく。さらに、「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の各内容と効果的に関連させて扱い、全体として家庭生活を総合的に捉えることが指導計画の工夫である。  
 【成長マップの例】  
 (令和元年度小杉小学校の実践事例)



② 2学年間を見通した題材配列  
 小学校と中学校の内容一覧（学習指導要領p8）等を参考にして中学校の指導内容との系統性を確かめ、小学校段階における基礎的・基本的な知識及び技能を明確にする。そして、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから複雑なものへと次第に発展するように、段階的な題材配列をする。なお、学習指導要領A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」については、学年や学年の区切り等の適切な時期に、自分の生活の中から問題を見だし解決する実践的な活動を2学年間で一つ又は二つ設定して、家庭や地域で行うことができるようにする。限られた時間の中で目標を達成することができるよう、指導内容に抜けがないかを確かめながら、2学年間を見通して効果的に題材を配列する。

③ 指導の効果を高める題材構成  
 題材の構成に当たっては、考慮する資質・能力を明確にし、関連する内容の組合せを工夫したり学習過程との関連を図ったりする。そして、学校の教育活動全体を通じて行っている取組や他教科等との関連を明確にし、指導内容や指導時期等を考慮して題材を構成し、より効果的な指導が進められるようにする。また、資質や資力教育、環境教育、伝統文化に関する教育等、教科横断的な教育との関連が深いことを考慮し、家庭科の特質に応じた指導を進める。  
 子供たちの家庭生活の状況や生活経験の有無等により、子供の生活に対する興味・関心、学習意欲、思考の仕方、身に付いている知識や技能等は様々であることから、内容に関する子供たちの実態を的確に捉え、より身近な題材を設定するよう配慮する。また、基礎となる知識及び技能をより確かなものにするために、基本的な教材で習得した基礎的・基本的な知識及び技能を応用的な教材で活用する場を設定したり、実際の生活で活用する機会を意図的に設定したりする。その際、安全指導を適切に行い、授業教諭との連携や地域人材の活用等、専門性も高めた指導も考える。

<(1)②2学年間を見通した題材配列>

・小学校の学習内容が中学校・高等学校へと発展していくため、やり残しや逸脱がないか確かめる。  
 例：C消費生活・環境では、小学校は現金での店舗販売を扱う。クレジットカードの扱いは中学校の内容である。  
 (学習指導要領解説p14の内容対照表、中学校学習指導要領解説P118,119参照)

・A(4)は、A(2)(3)やB、Cとの関連を図り、課題設定から評価・改善まで計画を立て、2年間で1つまたは2つの課題を設定して実施するものである。題材配列表に位置付けられているか確認する。  
 ※題材の終末に教師が「家でもやってみよう」と家庭での実践の場を設定することは意味が異なる。

参考資料：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p60～事例3参照（配列表の例は、昨年度試案p41参照）

新学習指導要領の趣旨を踏まえて変更

<(1)③指導の効果を高める題材構成>

・子供の実態を的確に捉え、より身近な題材を設定する。  
 ・獲得した知識・技能を活用する場を設定する。



**<(2) 学習過程のイメージ>**

今年度も、①～④の流れを基に、子供が自ら課題を設定し、問題解決ができるようにする。  
 そのために、p43の<教師の支援>を題材や児童の実態に応じて工夫する。

**<(3) ①指導と評価の計画の作成>**  
**今年度より次の3観点で評価することを確認する。**

- ・知識・技能
- ・思考・判断・表現
- ・主体的に学習に取り組む態度

※「**主体的に学習に取り組む態度**」は家庭科では3つの側面（粘り強い取組を行おうとする側面、自らの学習を調整しようとする側面、家庭で実践しようとする側面）から評価する。

※「**指導と評価の一体化**」のための学習評価に関する参考資料」に、学習評価に関する事例が紹介されている。（国立教育政策研究所 令和2年3月発行）  
<https://www.nier.go.jp/kaiatsu/shidouiryou.html>

**<(3) ②評価方法>**  
 どの場面で（例①：第1時のどこで、どのように見取るのか）、（例②：学習カード）、3観点のどの観点の評価なのか（例③：知識・技能）を明確にする。 ※下記参照

観点	時間	ねらい・学習活動	知識・技能	思考・判断	評価方法
①	1時	○家庭には、家族生活を支える仕事があり、互いに分担して協力していく必要があることを理解することができる。 ○家庭の仕事や役割を分担し、協力し合う、家族を支える仕事への協力について話し合う。	①家庭を支える仕事がある。	①互いに協力して分担する必要があることを理解している。	①学習カード

参考資料：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p45～47

2 学習過程の工夫

**(学習過程のイメージ)**

第6学年「やってみよう」家族にぴったり3つ星定食づくり（平成30年度 宮野小学校実践事例を参考に作成）

**①生活の課題発見**

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

**(活動のねらい)**

日々の生活を見つめ、家庭生活への関心を高める。  
 自分の生活から問題を見だし、解決すべき課題を設定する。

**②解決方法の検討と計画**

お母さんは、仕事と家のことで大変そう。お母さんの疲れがとれるような献立にしたいな。じゃがいも料理では、どんな調理方法があるのかな。食材の組合せをどのように工夫したらいいかな。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

**(活動のねらい)**

課題解決に向けての見通しをもつ。  
 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。  
 仮説を立てて試行したり比較検討したりして、課題を解決する方法を見いだす。

**③課題解決に向けた実践活動**

自分が考えた献立に合わせて、食材を近くのスーパーマーケットに買いに行く。  
 前日に調理実習をしよう。じゃがいもは、同じ大きさに切った方が、火の通りが同じになっておいしくなるのだったね。疲れをとる食材の玉ねぎを薄く切って入れてみよう。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

**(活動のねらい)**

習得した知識及び技能を活用し、課題を解決する。  
 基礎的・基本的な知識及び技能を確かなものにする。

課題の達成状況を振り返り、考察する。改善案を検討するなど、次への課題をもつ。  
 自分の成長を自覚し、家庭生活や家族の大切に気付く。  
 実践する喜びを味わい、継続して実践しようとする。

**④実践活動の評価・改善**

一人でポテトサラダを作ることができて、うれしかったよ。玉ねぎを入れるとお母さんの好きそうな味になったよ。でも、マヨネーズを入れすぎたかもしれないな。今度つくるときは、少なくしてみよう。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

**(活動のねらい)**

習得した知識及び技能を活用し、課題を解決する。  
 基礎的・基本的な知識及び技能を確かなものにする。

課題の達成状況を振り返り、考察する。改善案を検討するなど、次への課題をもつ。  
 自分の成長を自覚し、家庭生活や家族の大切に気付く。  
 実践する喜びを味わい、継続して実践しようとする。

実践する喜び・成長の自覚

3 評価の工夫

**① 指導と評価の計画の作成**  
 題材の目標を明確にした上で指導の計画を立て、題材の評価規準を設定する。それを基に「指導と評価の計画」を作成する。評価規準を設定する際は、その時間のねらいや学習活動に照らして、いずれかの観点に重点を置く。また、基礎的・基本的な知識及び技能が身に付いていない子供に対して、例えば、ゆで野菜サラダ作りでは、切り方の見本を見せたり、実際に教師等が示範したりするなどして具体的な指導の手立てを工夫する。一人一人の学習状況を的確に捉え、指導に生かすことのできる評価を進めていくことで、個に応じた適切な指導や支援につながる。 ※下記参照

観点	時間	ねらい・学習活動	知識・技能	思考・判断	評価方法
①	1時	○家庭には、家族生活を支える仕事があり、互いに分担して協力していく必要があることを理解することができる。 ○家庭の仕事や役割を分担し、協力し合う、家族を支える仕事への協力について話し合う。	①家庭を支える仕事がある。	①互いに協力して分担する必要があることを理解している。	①学習カード

観点	時間	ねらい・学習活動	知識・技能	思考・判断	評価方法
②	2時	○家庭には、家族生活を支える仕事があり、互いに分担して協力していく必要があることを理解することができる。 ○家庭の仕事や役割を分担し、協力し合う、家族を支える仕事への協力について話し合う。	①家庭を支える仕事がある。	①互いに協力して分担する必要があることを理解している。	①学習カード

参考資料：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p45～47

教師の支援

**(学習過程のイメージ)**

「やってみよう」1頁分の紙を考え、調理ができるようになりた。おうちの人は、献立を考えると何を大切にしているのかな。調べてみよう。

**(活動のねらい)**

日々の生活を見つめ、家庭生活への関心を高める。  
 自分の生活から問題を見だし、解決すべき課題を設定する。

**(教師の支援)**

児童の実態把握  
 視点を明らかにした観察  
 共通体験の場

**学習形態や学習環境の工夫**

- ・ペア学習
- ・グループ学習
- ・ジグソー学習
- ・学習コーナー
- ・ICTの活用
- ・チームティーチング（授業教諭等との連携）
- ・ゲストティーチャー
- ・地域ボランティア
- ・ワークシート
- ・評価カード

**学びを深める手立て**

**【主体的な学びを支える】**  
 ・学ぶ必要感や見通しをもち、課題解決のための知識及び技能を習得できるように、題材の導入時に学習のゴールを明示し、子供自身が家庭で実践する姿を思い描いたり、課題について話し合ったりする活動を大切にす。  
 ・視点を明確にした観察やインタビュー、体験等の活動を取り入れ、子供が気付いたことや感じたことを意欲的に話したり、図表等を取り入れてまとめることができるようにする。  
 ・生活の問題を見だし課題を設定する。自分なりの解決方法を考えるなどの段階毎に、学習形態や指導体制を工夫する。また、書く活動を取り入れ、自分の考えとその根拠を明らかにできるようにする。  
 ・自分の課題を意識し、その解決に向けて、学習した内容を実際の生活に生かす場を設定する。また、子供自身が学習過程や学んだことを自分なりに整理・評価できるようなワークシート等の形式を工夫する。

**【対話的な学びを支える】**  
 ・話し合いの目的や視点を明示したり、気付きを記入するワークシートを準備したりして、自分の考えや取組を見直し、積極的に人々生活や仲間と語り合うことができるようにする。  
 ・取組や考えを友達に伝えるときは、絵や写真、模型等を示すよう働きかける。また、その考えに至った経緯についても明らかにして、互いのよい点や改善すべき点について話し合う場をつくる。  
 ・多様な考え方や取組に触れることができるよう、考えや取組の異同に積極的に気付くことができるような資料を工夫したり、協働的なグループ学習を効果的（構成員メンバー、活動内容、タイミング）に取り組ませる。必要に応じて、意図的指名をしたり考えの根拠を問い返し、働きかけをかけたりの積極的な働きかけを行う。

**家庭や地域との連携**

- ・家庭や地域で実践する場の確保や働きかけ等の協力依頼
- ・学習成果のお知らせ

**<(2) 学びを深める手立て>**

- 「**主体的な学び**」
- ・学習した内容を実際の生活に生かす場を設定する。
- 「**対話的な学び**」
- ・何のために、どんな視点で話し合いをするのかを明確に示す（話し合い自体が目的にならないように）。
- ・考えの異同に気付く写真や動画等の視覚的資料や協働的なグループ学習（例：目的別のグループ）を目的や題材に応じて取り入れる。

**<(3) ③主体的な学習を支える評価>**

「**自信度グラフ**」について  
 一人一人の進歩の状況や意欲について自己評価している。観点別学習状況の評価や評定には示しきれない個人内評価の形式である。

「学びに向かう力、人間性等」には、観点別評価を通じて見取することができる部分と、示しきれない部分がある。

グラフに併せて、「次の学習に向けて頑張ること」等、記述欄を設けるなどすることで、3つの側面から「主体的な学習に取り組む態度」の評価を行うこともできる。何を評価するのか明確にし、評価方法を工夫していくことが大切である。

※下記事例参照

自己評価 (◎△○)	次の学習に向けてがんばること
◎	なべでごはんをたたく時の火加減の調節の仕方を知ろうとDVDで調べ、強火、中火、弱火の強の大きさを確認しよう

参考資料：「学習評価の在り方ハンドブック」p6 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p49～51

③ 主体的な学習を支える評価

自分の生活の中から問題を見だし課題を設定し解決して授業では、題材全体で解決すべき課題とその課題解決の進み具合を子供自身が自覚することによって、次への目当てをもつことができる。より主体的な学習が展開できるように、1時間毎の評価に加え、題材のゴールを見据えた自己評価の場面と評価方法を工夫する。

「わくわくプロデュース 自信度グラフ」には、目指す自分の姿に対する自信度を気持で記録し、題材全体の達成度を自分自身で確かめながら学習に取り組めるようにした。B君は、自信度グラフに「夏を快適に過ごすテクニックをマスターし、家族の一員として仕事をする」ことを「なりたい自分の姿」として、設定した。

第1時・第2時では、住まい方について家庭で行っている工夫を調べ、環境に配慮した住まい方に目を向けた。(50%)  
 第3時では、家での実験や授業での実験・話し合いを通して、涼しく快適に過ごせる具体的な方法が見付かり、家庭での実践意欲が高まった。(75%)  
 (伊西西部小学校 平成30年度「研究のあゆみ」より抜粋)

【題材のゴールを見据えた自己評価例：自信度グラフ】

ゴールの姿を意識しながら、上記「自信度グラフ」のように、それに近づく自分を実感できる評価カードを工夫することで、1時間毎の終末に「自分にとってのどのような力が付いたか」を意識し、できるようになったことを理解できるように自覚をもてるようにする。さらに「今後どのような力を身に付けたいか」を明確にし、次の課題解決への意欲を醸成できるように工夫する必要がある。